

小中一貫型 小野市立河合小学校 小野市立河合中学校 グランドデザイン

<p>小中一貫型 小野市立河合小学校・河合中学校の 学校教育目標</p>	<p>「他者と共創し、主体的に学ぶ児童生徒の育成」</p> <p>理数教育の推進を中核として、科学的な考え方・態度に裏打ちされた主体性を発揮し、私たちの地域・社会の未来を他者と共創していく自立した人材を育成する。</p>	<p>◆使命（ミッション） 5・4制の小中一貫教育によって、子どもたちの学力を向上させ、豊かな社会性を育てる。</p> <p>◆経営展望（ビジョン） 「共創する河合小中一貫学校」 共創する学校組織とは、教職員・児童生徒・保護者・地域等の協力者が互いに開かれており、協働することで価値創造する学校である。学校教育目標で示した人材が育成される教育的価値が、5・4制の9年間一貫教育を通して創造されていく新たな共創的学校文化を創造し醸成していく。</p>
--	--	--

<p>経営展望（中期経営目標）実現に向けての現状（進捗状況）と今年度の位置づけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・11年間の小中連教育の成果を基盤としつつ、次世代を担う人材を育成するために、5・4制の小中一貫教育学校への移行を通して、より価値ある教育を探究し共創し続ける。平成28年度の小中一貫学校の本格実施から3年間（中期経営）が、その基盤づくりの期間となる。 ・そのため今年度（平成27年度）は、平成28年度からの新生・河合小中一貫教育学校の体制を検討し決定するための学校組織のあり方を試行する一年間となる。 ・5・4制一貫教育学校を目指した学校組織変革は、①一貫教育学校としての組織的動きを創出する分掌経営への改革、②5・4制を貫く授業研究システムの開発、③子ども理解に基づく児童生徒指導・支援体制の確立、④児童生徒の共創的な文化の醸成を促す教育システムの開発、⑤河合小中一貫学校と協力者のパートナーシップの構築、の5つを柱とする。
---	---

<p>経営方針（柱）とその考え方（戦略）</p>	<p>①一貫教育学校としての組織的動きを創出する分掌経営への改革</p> <p>②小中一貫した（5・4制を貫く）授業研究システムの開発</p>	<p>これまでの官僚的な校務分掌では、それぞれの分掌が十全に機能すれば、組織全体が前進していくという考え方が根本にあった。しかし、そのような相互作用や関係性の乏しい状況の中では、組織としての丸ごと子どもを育てるような学校運営は十分に果たすことはできなかった。それゆえ、それぞれの柱を束ねるミドルリーダーが主体的に組織を運営していく有機的なシステムが必要である。このような、一貫教育学校として組織的な動きを創出していくようなシステムの構築を柱とする。</p> <p>これまでの授業研究は、小中それぞれの目的・観点のもとに行なっていた。理数教育を旗頭に、9年間を見通した教育を行なう5・4制の一貫教育学校となるためには、9年間の義務教育を終えて卒業する生徒の学力を保障するという目的のもとに一つのシステムとして機能していくことが最も重要であると考え。それゆえ、5・4制の教育の意義や可能性を最大限に引き出し、9年間を通した児童生徒の育ちとして筋の通った教育が提供できるように、授業研究を行なっていくシステムの開発を一貫教育学校経営の柱とする。</p>
--------------------------	---	---

③子ども理解に基づく児童生徒指導・支援体制の確立	個々の児童生徒の力を伸ばすためには、児童生徒理解に基づいた指導が必須である。道徳の授業などを通して心豊かな児童生徒を育てながら、子どもの「いま」を受け入れ、子ども理解の上に立った生徒指導・支援を行っていくことを柱とする。
④児童生徒の共創的な文化の醸成を促す教育システムの開発	これまでの児童生徒の活動は、前年に倣った活動や教師主導の活動になりがちであった。主体性を発揮し、他者と共創し、河合小中の文化を醸成するために、合同行事や児童生徒集会など、児童生徒が自ら考えて実行する環境を設定することを柱とする。
⑤河合小中一貫学校と協力者のパートナーシップの構築	河合では、すでに子どもを地域で見守る風土がある。小中一貫教育の本格実施に向けて、さらに地域から理解を得て、地域ぐるみで推進していくことが必要である。さまざまな協力者を呼び込んで、学校への信頼を厚くし、子どもの学びにつなげていくことを柱とする。

グランドデザイン

